

地域の「たから」をまもる 深山観音堂自衛消防防災訓練



1月29日、深山観音堂で文化財防火訓練が行われました。26日の「文化財文化デー」に合わせ行っているもので、地元の深山観音堂自衛消防隊、消防団、白鷹分署の皆さんなど多くの人々が参加しました。半鐘の合図とともに、常設の放水銃2機とポンプ車から伸ばしたホースから放水。雪で足元の悪い状況ながら、素早く消火活動が行われました。こうした地元の人びとの日々の努力によって地域の「たから」が守られています。

伝統を守り続ける重要な作業 楮(こうぞ) ふかし作業



1月22日、深山和紙センターで和紙の原料となる楮ふかしが行われました。約700kgの楮を3回に分けて行われた作業は、早朝5時から実施。約3時間後に窯を開けると、窯場は湯気で真っ白になりました。窯から出した楮は、冷水に浸し、表皮を手作業で1本ずつむいて干していきます。当日は、深山和紙センター運営委員のほか、白鷹ファンクラブのかたも皮むき作業を体験していました。

新春の初笑い 山遊亭金太郎落語会



1月15日、あゆ一むで山遊亭金太郎落語会が行われ約170人が巧妙な話術を楽しみました。演目は「時そば」「芝浜」。表情やしぐさ、扇子を使っての古典落語の世界に、地元の話も巧みに織り交ぜ、笑いを誘いました。前座は、弟子の山遊亭くま八さん。川遊亭けん坊こと安部貴洗君（東中2年）も登場し、金太郎さんとの稽古の成果を披露しました。ロビーでは、オリジナル手ぬぐいや食品などの販売も行われました。

高校生が地域の職人に学ぶ 和菓子作り講習会



1月24日、荒砥高校で和菓子作り講習会が行われました。やまり菓子舗の新宮利幸さんが講師となり「フードデザイン」を選択している2年生16人が米粉の入った桜餅づくりに挑戦。生地の伸ばし方や裏返すタイミングなどを教わりながら思い思いの桜餅を完成させ、その後みんなで試食しました。31日には、割烹志ん月の大村安広さんを講師に、郷土食作りにも取り組み、モノづくりへの思いなどを学びました。

白鷹学講座パート⑤ 小室等トークライブ「復興」 れぼーと 1/21

阪神淡路大震災で被災した障害者救援と復興支援を目的とする「ゆめ風基金」や25年たった今も放射能に苦しむロシア・ウクライナ・ベラルーシの小児白血病の治療支援と新生児への支援を目的とする「日本チャイルドブレイク連帯基金(JCF)」などの活動を続ける小室さん。

ご自身の活動を通し、「自分のできることを自分のできる場所で、身の丈にあったことを子どもたちや未来のためにやり続けることが大事」とした小室さん。

3・11東日本大震災からの【復興】をテーマとする今回の特別プログラムは、心のすみずみまで響くもので、震災を風化させないためにも意義のあるものとなりました。

